

若松市の發展を期す

熱の人、力の人、誠の人

若松商工會議所會頭 藤井伊藏氏は語る



藤井伊藏氏

若松商工會議所會頭藤井伊藏氏は熱誠の人であり、力の人である、筑豊石炭鑛業互助會理事、藤井鑛業株式會社社長等の要職にありて、その温厚珠の如き人格は人の知るところで、冬の或日宏壯なる同氏の邸宅に氏を訪れたが、心好く引見を賜つたことを深く感謝する次第である。若松市の將來は實に洋々たるもので、工場誘致に於ても、土地が安

く電力が安く、特に運輸交通の便が良ければ誘かずして工場は誘致されるのである、洞海湾の修築が完成すれば若松は世界の良港となり、運輸交通は至便となるは説明するまでもない、そもく若松は石炭を以て主眼としてゐるが、いまの設備ではこれ以上の發展は望まれぬ、荷受、積荷の點から現在の貨車操車場の移轉は從來の市當局並に商工會議所の熱望するところであるが、未だ具體化されてゐない、石炭工業界のためにも鐵道本來の意義から云つても、この行きつまつた石炭積下しを容易ならしむべく、移轉問題は解決する必要があらう。若松市が廣大なる工業用地、住宅地を有することは將來性を約束す

るものである、私は歴代の會頭が色々なことを發意して未解決に残されたものを自分の手で解決したく思つてゐるが一言にして云へば若松市のために微力ながら獻身

的の努力を致す覺悟である——と氏の談話は次から次と續いて行く筆者が沁々と考へたのは、若松市の商工會議所の會頭に氏を得た事は、その事が既に若松市の喜びであり且つ力であるといふ事である。筆者は氏がかつて筑豊石炭鑛業互助會の名幹事長として、その名聲を全國に喧傳させた事も知つてゐると同時に情味溢れる親しみ易い藤井氏も知つてゐる。

1936 FEB

て
形手を防止し新
らしい毛を生や
す薬の良薬あ

五 金

JA-P363.001

徳の療も心十た